

# 交 流 通 信



このコーナーでは、国内外合わせて7つある田原市の姉妹・友好都市などの情報をお届けします。

企画課 23局3507

## 愛知万博フレンドシップ国・ラオス サイタニー郡との交流

ラオス人民民主共和国ヴィエンチャン特別市に位置する人口約15万人のサイタニー郡。田原市との交流は、2005年愛・地球博の一市町村一国フレンドシップ事業でのラオスとの交流をきっかけにスタートしました。現在、「人づくり」を目的とした交流に取り組んでいます。

### 農業研修事業

昨年11月9日から3月6日までの4か月間、サイタニー郡農林事務所から職員2名が来訪し、大草町の農家などで、バラの栽培方法を中心とした農業研修を受けています。ラオスでバラを栽培することはまだまだ一般的ではありませんが、サイタニー郡ではこの研修をきっかけに、郡の農業発展を目指しています。

この事業は、<sup>ジャイカ</sup>JICA(国際協力機構)の「草の根技術協力事業」として田原市が委託を受け、平成21年までの3年間にわたり実施するものです。



農業研修生トンスックさん(左)とアヌソンさん(右)「バラの栽培方法をはじめとした日本の農業はもちろんのこと、日本の文化などもたいへん勉強になっています。この経験や成果をラオスに伝え、発展につなげていきたいです。」と研修の合間に意気込みを語ってくれたトンスックさんとアヌソンさん。帰国後は、日本と環境の違うラオスで、どのようにしたらバラを栽培できるのか、また、どのような品種が栽培できるのかを試すことから始めるそうです。ラオスでは現在ほとんど生産されていないバラの花。道のりは長そうですが、いつかたくさん咲かせてほしいですね。

### 教育研修事業

昨年の6月24日～30日には「教育研修事業」も実施しました。サイタニー郡教育事務所から2名が田原市を訪れ、市教育委員会で日本の初等教育について説明を受けたほか、田原中部小学校で授業を見学したり、給食を体験したりするなど、日本の学校生活についても学びました。ラオスの教育環境はまだ不十分で、学校や教科書の不足が問題となっています。このような研修の成果などによる今後の発展が期待されます。



あいさつといえば、日本では「おじぎ」ですが、ラオスのあいさつはちょっと違います。ラオスの人たちは、あいさつをするとき、手のひらを合わせて、「ワイ」と呼ばれる合掌(がっしょう)をします。

国民の約90%が仏教を信仰するラオスでは、その教えが生活に根づいています。もしかしたらその「ワイ」も、仏教の教えからきているのかもしれない。

皆さんもラオスの人に出会ったときは、ぜひ「ワイ」であいさつをしてみてください。

日本とはちょっと違う!?

ラオスの  
「あいさつ」